

PAT-NO: JP411331662A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11331662 A

TITLE: PORTABLE ELECTRONIC DEVICE

PUBN-DATE: November 30, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
NAKAO, SOICHIRO	N/A
HAYASHIDA, TAKAYUKI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
FUJI PHOTO FILM CO LTD	N/A

APPL-NO: JP10138928

APPL-DATE: May 20, 1998

INT-CL (IPC): H04N005/225

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a portable electronic device where a number of operation functions are integrated in a small space and which is simply operated by one hand.

SOLUTION: A mode dial 44 is placed at a position where the thumb of the right hand gripping the right side grip section of a main body is naturally placed when viewing an electronic camera 10 from a rear side, and cross key 46 is placed at the left side of the mode dial 44. The cross key 46 is used as an operation key to select various mode setting items and to instruct revision of setting contents. Then a menu/execution key 48 to confirm items and setting contents selected/revised by the cross key 46 is provided at the lower left part in the vicinity of the cross key 46. Through the configuration above, desired operations are entered with a motion of fingers eliminating much of waste along with an operation flow.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-331662

(43) 公開日 平成11年(1999)11月30日

(51) Int.Cl.⁶
H04N 5/225

識別記号

F I
H04N 5/225

F

審査請求 未請求 請求項の数 4 QL (全 7 頁)

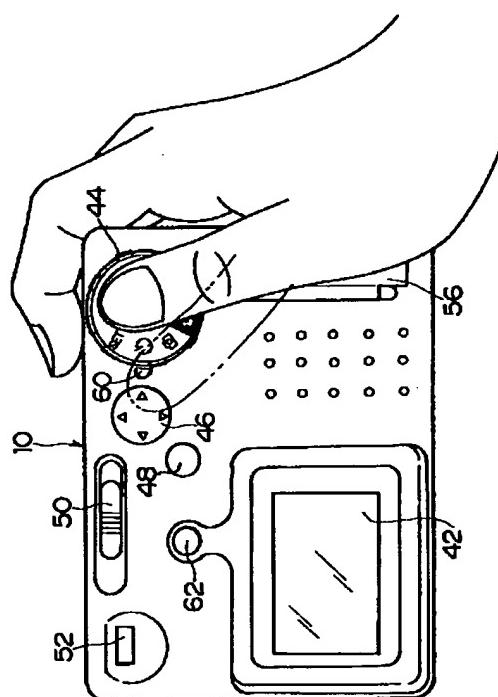
(21)出願番号	特願平10-138928	(71)出願人	000005201 富士写真フィルム株式会社 神奈川県南足柄市中沼210番地
(22)出願日	平成10年(1998) 5月20日	(72)発明者	中尾 宗一郎 埼玉県朝霞市泉水3丁目11番46号 富士写 真フィルム株式会社内
		(72)発明者	林田 隆之 埼玉県朝霞市泉水3丁目11番46号 富士写 真フィルム株式会社内
		(74)代理人	弁理士 松浦 鑑三

(54) [発明の名称] 携帯型電子機器

(57) 【要約】

【課題】小さいスペースに、より多くの操作機能を集約し、片手で簡単に操作できる携帯型電子機器を提供する。

【解決手段】電子カメラ10を背面側から見て、本体右側のグリップ部を持った右手の親指が自然に位置する場所にモードダイヤル44が設けられ、モードダイヤル44の左横には十字キー46が配置される。十字キー46は、モード等の設定における各種設定項目の選択や、設定内容の変更を指示する操作キーとして使用される。そして、十字キー46で選択/変更した項目や設定内容を確定する為のメニュー/実行キー48が十字キー46の近傍左下部に設けられる。かかる構成により、操作の流れに沿って右から左へと無駄のない指の動きで所望の操作入力ができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】複数のモードのうちから1のモードを選択するためのダイヤル操作部と、前記ダイヤル操作部で選択したモードの下で所望の項目を選択し、又は所望の指示入力を行う操作部であって、上下左右の4方向へ傾倒自在なボタン部材から成る十字キー操作部と、を備えた携帯型電子機器において、

機器本体の一部を把持する手の親指によって操作可能な位置に前記ダイヤル操作部を設けると共に、該ダイヤル操作部の周囲近傍であって前記親指によって操作可能な位置に前記十字キー操作部を設けたことを特徴とする携帯型電子機器。

【請求項2】前記十字キー操作部で選択した内容を確定する実行ボタンを、前記親指によって操作可能な位置であって前記前記十字キー操作部を挟んで前記ダイヤル操作部と反対側に設けたことを特徴とする請求項1記載の携帯型電子機器。

【請求項3】前記ダイヤル操作部の上面中心部に凹部を形成し、該ダイヤル操作手段を操作しないときに前記凹部に親指を安定して置いておくことができるようダイヤル操作部を指置き部として兼用するようにしたことを特徴とする請求項1、又は2記載の携帯型電子機器。

【請求項4】前記携帯型電子機器は、画像光を電気信号に変換する撮像手段と、前記撮像手段で撮影された画像を示す画像データを前記カード状記録媒体に記録すると共に、前記カード状記録媒体からデータを読み出す読み書き手段と、前記撮像手段で撮影された画像又は前記カード状記録媒体から読み出された画像を表示する平面表示手段と、を備えた電子カメラであることを特徴とする請求項1、2又は3記載の携帯型電子機器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は電子カメラなどの携帯型電子機器に係り、特に機器本体に設けられる操作部の構成及びその配置構造に関する。

【0002】

【従来の技術】電子カメラや電子ブックなど携帯型電子機器の操作部には、押しボタン、スライドつまみ、或いは回転ダイヤルなどが用いられている。これら多様な形態のうちから、どのような操作部材を採用し、それらを機器本体上に如何に配置するかによって電子機器の大きさや操作性（使い易さ）が大きく左右される。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】特に、近時電子機器の一層の小型化、多機能化に伴って、操作部の配置スペースの確保や操作性の向上が製品開発において重要な要素を占めるようになっている。本発明はこのような事情に鑑みてなされたもので、小さいスペースに、より多くの操作機能を集約し、片手で簡単に操作できる携帯型電子機器を提供することを目的とする。

10

【0004】

【課題を解決する為の手段】本発明は前記目的を達成する為に、複数のモードのうちから1のモードを選択するためのダイヤル操作部と、前記ダイヤル操作部で選択したモードの下で所望の項目を選択し、又は所望の動作指示を行う操作部であって、上下左右の4方向へ傾倒自在なボタン部材から成る十字キー操作部と、を備えた携帯型電子機器において、機器本体の一部を把持する手の親指によって操作可能な位置に前記ダイヤル操作部を設けると共に、該ダイヤル操作部の周囲近傍であって前記親指によって操作可能な所定の位置に前記十字キー操作部を設けたことを特徴とする。

20

【0005】本発明によれば、機器を把持した片手の親指でダイヤル操作部を回転操作することでモードを選択することができ、また、ダイヤル操作部から親指の位置をずらすだけで、十字キー操作部を簡単に操作できる。上記構成に加え、請求項2に記載の如く、前記十字キー操作部で選択した内容を確定する実行ボタンを、前記親指によって操作可能な位置であって前記十字キー操作部を挟んで前記ダイヤル操作部と反対側に設けることが好ましい。このように、ダイヤル操作部から、十字キー操作部、及び実行ボタンを順に並べて配置したことにより、ダイヤル操作部によるモード選択をし、そのモード下で更に詳細な設定を十字キー操作部から選択入力し、これを実行ボタンで確定するという具合に操作の流れに従って無駄の無い動きにより一連の操作を行うことができる。

30

【0006】請求項3に記載した発明は、前記ダイヤル操作部の上面中心部に凹部を形成し、該ダイヤル操作部を操作しないときに前記凹部に親指を安定して置いておくことができるようダイヤル操作部を指置き部として兼用するようにしたことを特徴としている。かかる態様によれば、指置き部としてのスペースを特別に確保する必要が無く、また、ダイヤル中心部の凹部に親指を置いた時の安定感もあり、ホールド感に優れるという利点がある。

40

【0007】例えば、上述した請求項1、2又は3に係る発明の具体的な一態様として、請求項4に記載の如く、画像光を電気信号に変換する撮像手段と、前記撮像手段で撮影された画像を示す画像データを前記カード状記録媒体に記録すると共に、前記カード状記録媒体からデータを読み出す読み書き手段と、前記撮像手段で撮影された画像又は前記カード状記録媒体から読み出された画像を表示する平面表示手段と、を備えた電子カメラに適用することができる。

50

【0008】【発明の実施の形態】以下添付図面に従って本発明に係る携帯型電子機器の好ましい実施の形態について詳説する。図1には本発明を電子カメラに適用した例が示されている。同図に示したように、この電子カメラ10は、

略直方体形状の外装ケーシング12(キャビネット)を有し、本体14正面右側にファインダー窓16及び撮影レンズ18が上下に並んで配置されている。ファインダーーやレンズは種々の形態が可能であるが、例えば、アルバダ式ファインダーが採用されると共に、撮影レンズとして $f=4\text{ mm}$ 程度の単焦点レンズが用いられる。そして、撮影レンズ18の後方には撮像手段に相当する図示せぬCCD(撮像素子)が配置される。CCDの画素数は、希望する画質との関係で適正なものを選択する必要があるが、35万画素以上のものが好ましい。

【0009】ファインダー窓16及び撮影レンズ18の前面には上下方向にスライド自在なレンズカバー20が設けられており、本体14上面に設けられたカバー開放ボタン22を押すことにより図示せぬ係止機構の係止が解除され、レンズカバー20がバネ等の付勢手段の付勢力によって下方にスライドする。こうして、ファインダー窓16及び撮影レンズ18の前面が開放され撮影可能な状態となる。また、携帯時にはレンズカバー20を上方にスライドさせてファインダー窓16及び撮影レンズ18の前面を覆う。レンズカバー20を完全に閉じると前記係止機構によってレンズカバー20が閉状態で保持され、ファインダー窓16及び撮影レンズ18を保護できる。

【0010】図1上で本体14の左部は、撮影者が右手でカメラを保持し易いようにグリップ部24が形成されると共に、本体14上面にレリーズボタン26が設けられる。レリーズボタン26は2段階押し込み式に構成されており、いわゆる「半押し」の状態で自動ピント合わせ(AF)及び自動露出制御(AE)が作動してAFとAEをロックし、「全押し」の時に撮影開始信号が発せられ撮影が実行される。

【0011】また、本体14正面略中央の上部にストロボ28が設けられ、その下方にストロボ調光センサ30及びセルフタイマーランプ32が並んで配置される。図1のようにストロボ28をグリップ部24よりも中央寄りに配置したことで、グリップ部24を把持する撮影者の手がストロボ28に触れ難く、撮影者が誤ってストロボ28を手で覆ったまま撮影してしまうのを防止することができる。

【0012】本体14右側面上部に示した符合30は、撮影距離設定ツマミであり、該ツマミを上下方向にスライドさせることで近距離撮影、又は遠距離撮影に適した光学系を選択できる。この撮影距離設定ツマミ30以外にも、カメラ右側面にはデジタル入出力端子32、画像出力(VIDEO OUT)端子34、電源入力(DC IN 5V)端子36が設けられている。

【0013】電池蓋38は、本体14の底面部に図示せぬヒンジ機構によって開閉自在に設けられている。電池蓋38を図1上で手前側にスライドさせると、該電池蓋38を閉状態で維持する係止機構(不図示)の係止が解

除され、電池蓋38が下方向に開かれる。図2に示すように、電池収納部40は、略円柱状の電池(例えば、単3型乾電池、図2中不図示)4本をそれぞれ縦向き(長手方向をカメラの上下方向に沿わせた向き)の状態で平面的に横一列に並べて収納する形態を有している。4本の電池をカメラの下方からこの電池収納部40に挿入した後、電池蓋38を開放時と逆の手順で閉じることで、電池蓋38が係止機構により閉状態で保持され、電池の装填が完了する。なお、図2中符合40Aは電池収納部

10 40の支柱、41は三脚ネジである。

【0014】図3は、図1に示した電子カメラ10の背面側斜視図である。カメラの背面には、液晶モニター42(平板状表示手段)、モードダイヤル44、十字キー(上/下キー及び左/右キー)46、メニュー/実行キー48、電源スイッチ50、並びにファインダー接眼部(覗き窓)52等が設けられる。また、図3上で本体14右側面(グリップ部24と同じ側)には、外部記録媒体に相当する図示せぬメモリーカード(例えば、スマートメディア)を挿脱するためのカードコネクタ54の挿

20 入口54Aが形成されている。本例の電子カメラ10では、画像データを記録する媒体としてスマートメディア(イメージメモリーカード)を使用しているが、記録媒体の形態はこれに限らず、PCカード、フラッシュメモリーカード、ICカード、フロッピーディスク、光磁気ディスク(MO)等、カード形状を有した種々の形態が可能である。

【0015】電子カメラ10のカードコネクタ54は、スマートメディアを撮影レンズ18の光軸に対して直交する面内に沿って挿脱できるように、挿入口54Aの長手方向を縦方向に向けて配設されている。符合56は挿入口54Aを覆うカードカバーであり、このカードカバー56はヒンジ機構を介して開閉自在となっている。カードつまみ58を図3上で下方向にスライドさせると係合手段(不図示)の係止が外れてカードカバー56が開放される。また、カードカバー56を閉じると前記係合手段によってカードカバー56が閉状態に保持される。

【0016】液晶モニター42は、撮像系(撮影レンズ18及びCCD)を介して撮影した画像や、カードコネクタ54に挿入されたスマートメディアから読み出した画像情報等を表示する手段であり、例えば、2インチ低温ポリシリコン液晶モニターが用いられる。液晶モニター42は、カメラの背面側から見て前記カードコネクタ54の左横に配置されており、両者は奥行き方向について重なる部分を有することなく、左右に並んでメイン基板上に支持されている。その結果、液晶モニター42は、図3に示したようにグリップ部24から離れた左下隅部に形成される。

【0017】モードダイヤル44は、カメラ背面の右上隅、即ち、図3上でカメラ右部のグリップ部24を把持した右手の親指が自然に位置する場所に設けられる。こ

50

のモードダイヤル44は、ダイヤルの設定位置によってカメラの機能（モード）を変更する操作手段であり、例えば、周方向に沿ってクリック停止位置毎に「セットアップ（SETUP）」、「セルフタイマー」、「マニュアル撮影」、「オート撮影」、「再生」、「消去」、「画像保護（プロジェクト）」、「パソコン（PC）接続」の8つのモードを示す記号又は文字が順に形成されている。

【0018】このモードダイヤル44を図3上で時計回り方向又は反時計回り方向に回動操作して、上記8段階のモードのうち、所望の機能を表す記号又は文字を指標60に合わせることによりモード設定が行われる。モードダイヤル44の中央部は僅かな窪み（凹部）44Aが形成されており、該ダイヤルを操作しないときに親指をこのダイヤル中央部（44A）に置いておくことができる。このようにモードダイヤル44を指置き部として兼用することにより、指置き部としてのスペースを特別に確保する必要が無くなるとともに、親指を置いた時の安定感もあり、ホールド感に優れるという利点がある。

【0019】モードダイヤル44の左横には十字キー46が配置される。十字キー46は、上下左右の直交する4方向に傾倒自在な操作キーであって、中央部が凹んだ皿形の形状を有し、外周縁部から中央の平坦部に向かう斜面部に上下左右の4方向の操作の方向を示す三角マークが形成されている。上下左右の4方向を示す三角マークのうち何れかのマークの近傍を押圧することによって十字キー46が傾いて、対応する4方向（上、下、右、左）の指示を入力できるようになっている。この十字キー46は、モード等の設定における各種設定項目の選択や、設定内容の変更を指示する操作キーとして使用されるとともに、電子ズームの倍率調整、ズーム中心の移動指示、再生コマの送り／戻しを指示する手段として用いられる。

【0020】十字キー46の近傍左下部に設けられた符号48はメニュー／実行キーである。メニュー／実行キー48は、十字キー46で選択／変更した項目や設定内容を確定したり、各種設定の項目の一覧を示すメニュー画面を表示させるための操作キーとして用いられる。また、液晶モニター42の上辺中央部には表示キー62が設けられ、この表示キー62を1回押す毎に液晶モニター50の点灯（ON）／消灯（OFF）が切り替わるようになっている。撮影モードで表示キー62を押して液晶モニターをONすると、撮像系が捉えた映像（スルー動画）が画面に表示され、撮影者はこの表示を見ながら構図を決定できる。

【0021】次に、上記の如く構成された電子カメラの作用について説明する。図4に示すように、本実施の形態に係る電子カメラ10において、モードダイヤル44や十字キー46など、カメラ背面に設けられている各操作部は全て、グリップ部を把持する右手の親指で操作で

きる位置に配置されており、片手操作が可能となっている。特に、モードダイヤル44、十字キー46、及びメニュー／実行キー48は、操作の流れに沿って右から左へと無駄のない指の動きで所望の操作入力ができるよう配置されている。

【0022】図4に示したように撮影者がカメラのグリップ部24を右手で把持し、電源スイッチ50を図4上で右方向にスライドさせて指を離すと、液晶モニター42にオープニング画面が表示される。尚、電源スイッチ50から指を離したとき、電源スイッチ50は図示せぬ付勢手段の付勢力によって元の位置に戻るようになっている。

【0023】続いて、モードダイヤル44を回して希望するモードに合わせる。モードダイヤル44を「SET UP」に合わせると、液晶モニター42にセットアップ画面が表示される。その後、撮影者は十字キー46の上／下キーを操作して、セットアップ画面から変更したい項目を選択し、左／右キーで設定内容を変更して所望の設定入力をを行う。

【0024】十字キー46の左／右キーを押す毎に設定内容が切り替わり、所望の設定内容が表示されたら左／右キーの押圧を止める。そして、設定を決定するには、メニュー／実行キー48を押すか、あるいは、モードダイヤル44を他のモードに切り換える。セルフタイマー撮影モードは、約10秒のセルフタイマー撮影が可能になる。モードダイヤル44をセルフタイマーの位置に合わせると、液晶モニター42に「セルフタイマー」表示が現れる。構図を決めてレリーズボタン26を半押しすると、AE及びAFが作動し、ピント及び露出合わせが完了すると液晶モニター42に「スタンバイ」表示が現れる。その後、レリーズボタン26を全押しすると、カメラ前面のセルフタイマーランプ32が点滅して約10秒後に撮影が実行される。

【0025】マニュアル撮影モードは、撮像系が捉えた画像を液晶モニター42で確認し、その画像をスマートメディアに記録するか記録しないかを選択できるモードである。また、このモード下では、更に、白バランス設定、明るさ設定（露出補正）、ストロボの明るさ設定、及び連続撮影（マルチREC）設定が可能である。モードダイヤル44をマニュアル撮影モードに合わせると、各種設定の項目がモニタ上に一覧表示される。撮影者は十字キー46の左／右キーで項目を選択し、上／下キーで設定内容を変更した後、メニュー／実行キー48でその設定を確定するようになっている。なお、設定入力の途中でメニュー／実行キー48を押すと元のメニュー画面に戻る。

【0026】また、このマニュアル撮影モード下で、表示キー62を押すと、液晶モニター42に撮影（記録）前の動画（いわゆるスルー動画）が表示される。撮影者が、この表示を見ながら構図を決定し、所望の構図を得

てレリーズボタン26を半押しすると、カメラが自動的にピント合わせ及び露出を合わせ行う。そして、撮影準備が完了（AF、AE完了）すると、液晶モニター42に「スタンバイ」表示が現れる。

【0027】その後、レリーズボタン26を全押しすると、液晶モニター42の画面が静止（フリーズ）し、プレビュー画（撮影された静止画）が表示される。このプレビュー画の画像データをスマートメディアに記録しない場合には、十字キー46の下キーを押すことにより、スルー動画に戻る。一方、プレビュー画に表示した画像のデータをスマートメディアに記録する場合には、メニュー／実行キー48を押す。なお、画像データをスマートメディアに記録している期間中、次の撮影は禁止され、記録処理が終了した後にスルー動画表示に戻る。

【0028】オート撮影モードは、撮影状況に応じて露出（電子シャッターワーク値と絞り値の組合せ）と、ピントをカメラが自動的に制御するとともに、レリーズボタン26の全押しに応じて画像データをスマートメディアに自動的に保存するモードである。このオート撮影モードは、簡単で使い易い撮影モードであり、特別な撮影を除いて一般的な撮影（通常撮影）を行う場合には、主としてこのモードに設定することになる。

【0029】光学ファインダーを使用する場合、ファインダー接眼部52を覗いて視野の略中心に現れるAFフレームマークを被写体に合わせて構図を決定し、レリーズボタン26を半押しすると、AE、AF機能が作動する。その後、レリーズボタン26を全押しすると、この時CCDから読み出された画像データをスマートメディアに記録する。

【0030】一方、液晶モニター42を使って撮影する場合には、モードダイヤル44をオート撮影モードに合わせた後、表示キー62を押す。表示キー62の押すと、液晶モニター42にスルー動画が表示され、撮影者はこのモニター表示を見ながら構図を決定できる。構図の決定後レリーズボタン26を押して撮影を行う動作は上述の通りである。

【0031】また、液晶モニター42を使った撮影では、デジタルズーム（電子ズーム）撮影機能を用いることができる。即ち、スルー動画を液晶モニター42に表示させた状態で、十字キー46の上キーを押すと、液晶モニター42の画面左上隅部に「×2」表示が現れ、画面の中心点を拡大中心として、画面中央部分が2倍に拡大される。なお、十字キー46の下キーを押すと拡大処理が解除される。液晶モニター42を見ながら構図を決定して、レリーズボタン26を操作し、撮影を行うと、この拡大された画像のデータがスマートメディアに記録される。

【0032】再生モードは、撮影済の画像を液晶モニター42やテレビ等に再生する時に設定するモードであり、一コマ再生、マルチ再生（複数コマ分の画像を画面

上に1度に同時再生する形態）、指定コマ以降を自動で一定の時間毎に連続的に再生する自動再生（オートプレイ）等の形態がある。また、再生画像を電子ズームで拡大する再生ズーム、画像データを他のメディアへコピーする画像コピー、撮影画像の色調変更（美肌化、セピア色化）や画素数変更（リサイズ）も可能である。このような各種機能の操作に際しては、十字キー46、メニュー／実行キー48及び表示キー62の組合せによって所定の入力を用いる。

10 【0033】モードダイヤル44を再生モードに合わせると、スマートメディアに記録されている最終コマが再生され、液晶モニター42等に表示される。別のコマを再生する場合には、十字キー46の左／右キーを操作してコマ送りする。右キーを1回押すと1コマ順送りされ、左キーを1回押すと1コマ逆送りされる。この1コマ再生中には、再生ズーム機能を使用することができる。即ち、1コマ再生中に、十字キー46の上／下キーを操作すると、その押圧操作に応じて、再生中の画像を画面中心を拡大中心点として1～4倍の任意の倍率で拡大して表示させることができる。この場合、上キーは拡大キーに相当し、下キーは縮小キーに相当する。

20 【0034】消去モードは、スマートメディアに記録した画像を消去するモードであり、メニュー選択画面に従って、十字キー46で項目やコマ番号を選択し、メニュー／実行キー48でその指示を確定することにより、1コマ消去、全コマ消去、及びスマートメディアの初期化を行うことができる。プロテクトモードは、撮影した画像を誤って消去しまわないように、画像データを読み出し専用（リードオンリー）データにするモードであり、1コマ毎のプロテクト（画像の保護）又はプロテクトの解除、及び全コマのプロテクトの一斉解除が可能である。このモード下でも十字キー46で項目やコマ番号を選択し、メニュー／実行キー48でその指示を確定する。

30 【0035】PCモードは、当該電子カメラ10とパソコンとを専用ケーブルで接続して両者間で画像データの送受信を行うモードである。撮影した画像をパソコンに取り込む時、または、パソコンを使ってスマートメディアに画像を記録したり、画像を消去する時に使用するモードである。本実施の形態に係る電子カメラによれば、グリップ部24を持った右手の親指だけでモードダイヤル44、十字キー46、電源スイッチ50、表示キー62、メニュー／実行キー48等の各操作部を簡単に操作することができる。特に、液晶モニター42の表示内容の切り替え・変更に関する操作部（モードダイヤル44や十字キー46）を操作する際に、液晶モニター42が手で隠れることなく、モニターの表示を見ながら確実な操作を行うことができるという利点がある。

40 【0036】上記実施の形態では、モードダイヤルがカメラ本体背面に設けられている例を説明したが、図5に

示すように、本体14上面にモードダイヤル44を設けてよい。また、上記実施の形態では、平面表示手段として液晶モニターを用いているが、表示手段の形態は液晶に限らず、EL (electro luminescence) ディスプレイ、LED (light emitting diode) ディスプレイ、プラズマディスプレイなど、様々な形態が可能である。

【0037】更に、上記実施の形態では、電子カメラを例に説明したが、本発明は電子ブックや携帯情報端末など、平面表示手段を有する電子機器に広く適用することができる。

【0038】

【発明の効果】以上説明したように本発明に係る携帯型電子機器によれば、機器本体の一部を把持する手の親指によって操作可能な位置にダイヤル操作部と十字キー操作部とを隣接して設けたので、小さいスペースに操作機能を集約することができ、また、片手の親指で簡単に操作することができる。

【0039】特に、前記十字キー操作部で選択した内容を確定する実行ボタンを、前記十字キー操作部を挟んで前記ダイヤル操作部と反対側に設け、ダイヤル操作部から、十字キー操作部、及び実行ボタンを順に並べて配置

したことにより、操作の流れに従って無駄の無い動きで一連の操作を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態を示す電子カメラの外観斜視図

【図2】図1の電子カメラを底面側から見た斜視図

【図3】図1の電子カメラの背面側斜視図

【図4】本例の電子カメラを把持した様子を背面側から見た図

10 【図5】本発明の他の実施の形態を示す電子カメラの要部斜視図

【符号の説明】

10…電子カメラ

12…外装ケーシング

14…本体

18…撮影レンズ

24…グリップ部

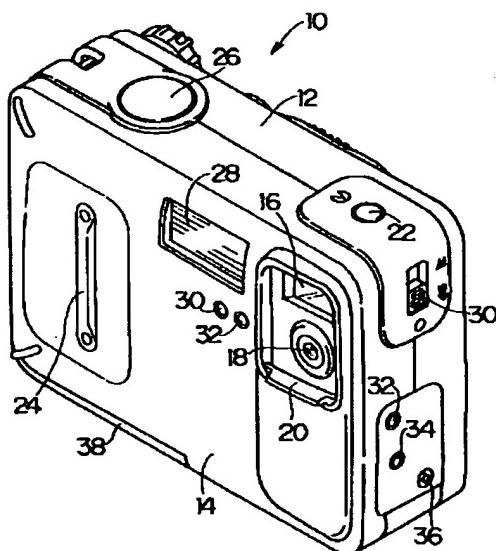
42…液晶モニター

44…モードダイヤル

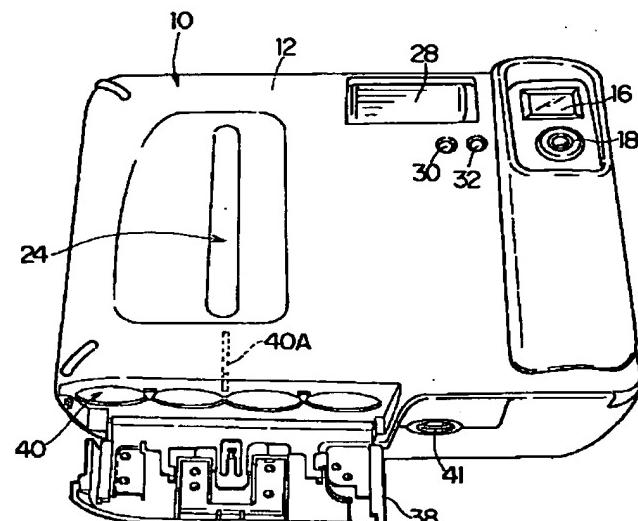
20 46…十字キー

48…メニュー／実行キー

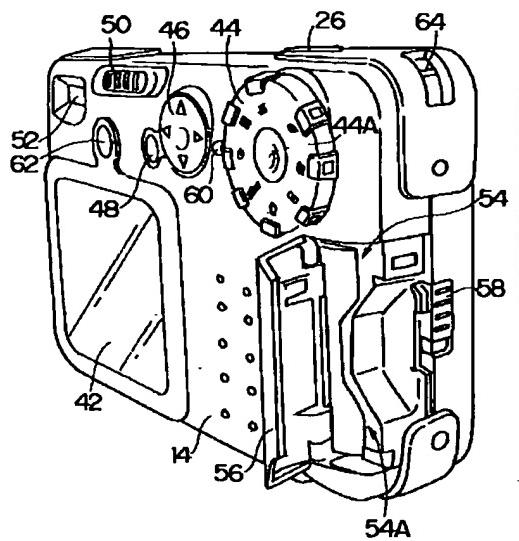
【図1】



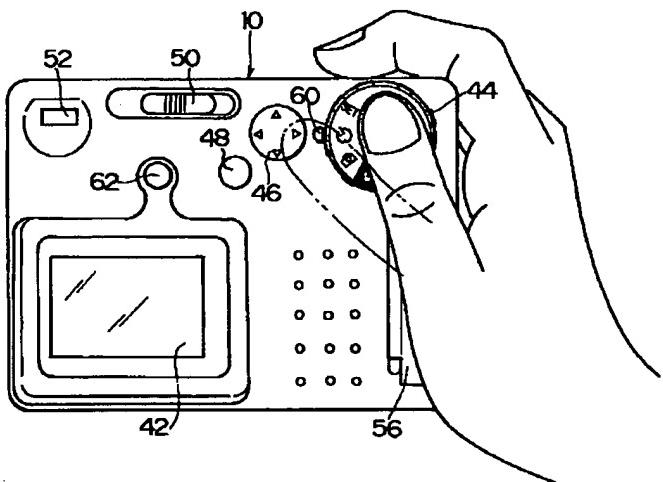
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

